

第20回 モルック世界大会 in ポーランド 報告書

2025

2025年8月31日

一般社団法人 日本モルック協会

代表理事 ハツ賀秀一



1

はじめに

2025年8月14日から17日、第20回モルック世界大会がポーランド・ゴウオチズナで開催されました。会場はワルシャワから北へ約 80kmに位置する「ゴウオチズナ・ファミリーパーク」で、23か国167チーム・約770名の選手が集まり、4日間にわたり熱戦が繰り広げられました。

2023年フィンランド、2024年函館に続き、2年ぶりとなるヨーロッパでの開催です。日本からは22チーム113名が参加し、世界の舞台で健闘しました。各国の代表チームによる国別対抗戦には、6月の日本モルック選手権大会で代表に選ばれた熊崎隆介氏・今井智也氏・内藤平氏の3名が出場しました。大会の様子はポーランドモルック連盟(Polska Federacja Młokky)の公式YouTubeで配信され、また、JMAもTikTokライブを通じて一部の試合を中継し、日本のファンへリアルタイムで熱戦を届けました。

本報告書では、大会のハイライト、日本チームの成果や国際交流の様子をまとめています。



大会初日は真夏の太陽が照りつける快晴。気温は 31℃を超え、会場には世界各国から集まった選手たちが次々と投擲を繰り返し、観客席からは大きな拍手と声援が飛び交いました。この日行われたダブルス戦方式のウォームアップ大会には147チームが参加。

日本勢も序盤から積極的な攻めを見せ RATEL D.T.(高橋大地、坂口武伸)は決勝まで駒を進め、フィンランドの強豪チーム相手に接戦を演じました。惜しくも 0:2 で敗れはしたものの、堂々の準優勝。さらに Akashi Molcky Club(室屋拓、上岡涼太)が3位入賞を果たしました。

大会を通じて、各国選手が互いのプレーを称え合い、観客からは「投擲の精度が素晴らしい」といった感嘆の声も多く聞かれました。試合の合間には自然と交流の輪が広がり、記念写真の撮影、缶バッジやお菓子を交換し合うなど、初日から国境を越えた一体感が育まれる様子が印象的でした。翌日以降の本戦に向け、会場の熱気はさらに高まっていきました。



大会2日目は、各国代表がそれぞれのコートでウォームアップを行い、国別対抗戦がスタートしました。会場では握手や作戦確認が交わされ、国際大会らしい緊張感に包まれました。

19か国が参加した国別対抗戦では、各国代表が誇りを胸に熱戦を展開。日本代表（熊崎隆介、今井智也、内藤平）は惜しくも決勝トーナメントへの進出を逃したものの、下位トーナメントでは快進撃が続き、スペインとの接戦を制して9位に輝きました。周囲では他国の選手や観客も互いの健闘を称え合い、勝敗を超えて「世界の仲間と競う」空気が広がっていました。

夕方から始まった本戦予選では、167チームが20グループに分かれ総当たり戦を実施。日本から22チームが参戦し、各国チームと肩を並べて緊迫した戦いを繰り広げました。国籍を問わず応援の声が響き、国際色豊かな一体感が生まれました。JMAのアンバサダーとして活躍するキングオブモルックも大会に参加し、会場のみならず日本からライブ配信を見守るファンらの注目を集めました。



左から 内藤選手、熊崎選手、今井選手



3日目は気温25℃、過ごしやすい晴天の中で予選の続きが行われました。会場のあちこちで歓声が上がり、一投ごとに観客が沸き立つ光景はまさに世界大会の醍醐味でした。ウェブサイト(<https://mm2025.molkkify.app/results>)でリアルタイムの試合結果が更新され、選手や観客が次の試合に期待を膨らませました。

最終的に167チームから128チームが決勝トーナメントへと進出。日本勢も18チームが勝ち残り、選手同士で声を掛け合いながら健闘を称え合う姿が見られました。各国のチームが互いに敬意を示し合う場面は、単なる競技会を超えた交流の場を感じさせました。

夕方になると公園内に併設されたステージで生演奏が始まり、観戦だけでなくクリエイション的な雰囲気も会場に広がりました。参加者がビールを片手に音楽に合わせて交流するなど、試合とは異なる形で大会の一体感を楽しむ様子が印象的でした。



赤ユニフォームがキングオブモルックのメンバー

左から みなみかわさん、溜口佑太朗さん、カナイさん、森田哲矢さん

最終日、気温21℃と爽やかな天候の中で決勝トーナメントが行われました。コート周囲からは各国応援団の声援が響き渡りました。準決勝・決勝は一投ごとに歓声とため息が交錯し、世界最高峰の戦いを目の当たりにした観客は固唾を呑んで見守りました。

決勝ではフィンランドのEHがフランスのBâtonMoucheを下し優勝。両国の選手は試合後に互いを称え合い、観客も総立ちで拍手を送りました。

日本から「武庫川モルックマメシーバ」が準決勝に進出し、BâtonMoucheに惜しくも敗れましたが、3位決定戦で勝利し銅メダルを獲得しました。また、日本の「MONGOOOSE」と「RATEL D.T.Y.Y」が5位入賞と、複数チームが上位に食い込む健闘を見せました。この結果は、日本勢が世界の上位レベルで健闘していることを示すものでもあり、日本勢の競技レベルの高さを改めて印象づけました。

決勝トーナメントに進めなかった、あるいは、初戦で敗退したチームは Orion Pharma Cupで熱戦を展開。日本の VistAAが優勝、Dragonsが準優勝を果たし、敗れたチームも笑顔で競技を楽しむ姿が印象的でした。最終日まで会場には選手間の交流や声援が広がり、国境を越えたコミュニケーションの場として大会を彩りました。



第20回モルック世界大会は、単なる競技の舞台にとどまらず、参加者同士が国境を越えて交流し、モルックというスポーツを通じて友情と理解を深める機会となりました。各国のプレーヤーが互いを讃え合う姿や、観客と選手が一体となって盛り上がる光景は、この大会が培ってきた20年の歴史と価値を改めて示すものでした。

今回の大会を経て、モルックは一層グローバルな広がりを見せ、各地での競技振興や次世代プレーヤーの育成に大きな弾みがつくと期待されます。また、選手やスタッフ、観客がともに過ごした時間は、スポーツを超えた国際的な絆を強める大切な財産となりました。

この経験を糧に、今後も世界各国での大会や交流が続き、モルックがより多くの人々に親しまれる存在となっていくことを願います。



第20回モルック世界大会
in ポーランド

JMAスタッフ

ハツ賀秀一
ハツ賀千穂
鈴木祐介

一般社団法人日本モルック協会

さいたま市南区神明1丁目4番15号

<https://molkky.jp>

https://twitter.com/Molkky_Japan

<https://www.facebook.com/japanmolkky>

[https://www.youtube.com/@JapanMolkky
Association](https://www.youtube.com/@JapanMolkkyAssociation)